

新闻摘要



(2月21日~4月20日)

2月24日(星期二)

下个月(3月1日),三鷹市将举行放映会,放映一部描写遗华妇人栗原贞子半生故事的纪录片《花之梦—记一位遗华妇人》(摄影・导演 东志津/于前年正式公映)。这部纪录片是在市民同好会的号召和努力下,才得以在导演家乡上映的。

3月10日(星期二)

为由于各种各样的原因而未能学完义务教育课程的人所设立的初中夜校,最近出现了中国学生骤增的现象。

位于东京江户川区的区立小松川二中夜校,其90名学生当中就有66名(超过七成)为中国国籍,而日本籍学生仅8名。作为走读生,该校1999年在迎来遗华孤儿及其家属的入学高峰后呈现骤减趋势,取而代之的,是因就业或结婚等理由前来日本居住的中国人及其家属。

东京都内八所初中夜校的情况也大致相同。中国国籍的学生占55%;在拥有十一所初中夜校、居全国之首的大阪府,也有三分之一的学生来自中国。

① 请注意

本栏目的新闻皆为一般报章的报道摘要。因此,并非为政府正式公布之内容,其中一部分还包含媒体的观察消息,敬请注意。

ニュース記事から

(2月21日~4月20日)

2月24日(火)

中国残留婦人・栗原貞子さんの半生を描いた記録映画「花の夢—ある中国残留婦人」(東志津氏撮影・監督・/一昨年に一般公開)の上映会が来月(3月)1日、三鷹市で開かれる。市民有志の呼びかけで同監督の地元での上映が実現した。

3月10日(火)

様々な事情で義務教育を終えられなかった人たちに学びの場を提供してきた夜間中学で今、中国人の生徒が急増している。

東京都江戸川区にある区立小松川2中の夜間学級では、90人の生徒の7割を超す66人が中国籍で、日本人は8人だけ。中国残留孤児とその家族の生徒が1999年をピークに減る一方、その目減り分を上回る勢いで、就労や結婚などで来日する中国人家族が増えた。

都内8つの夜間中学でも同じような傾向で、生徒の55%が中国籍で、全国最多の11校の夜間中学がある大阪府でも中国籍の生徒が全体の3分の1を占める。

① 注意

本欄の内容は、すべて一般の新聞などで報道された内容を要約して掲載しているものです。したがって、政府が公式に発表したものではなく、一部には報道機関の観測記事なども含まれていますので、ご注意ください。